

C-21 ズボンの折目線に関する研究(第9報)第2折目線因子の応用例について
高知女大家政 市川一夫 村田菊子 ○津野真千子

目的 型紙の Fork Line のところで脇を切り開き、前の折目線の外にながれるのを防ぐ方法がよくとられている。この方法について検討する。

方法 普通用いられている文献にある設計法を標準(1)とし、型紙を作る。この前身の型紙を Fork Line の脇の部分で切り開く。切り開かれた脇線の上の点に、これに標準の場合では当然この部分に縫合されるべき後身の点を縫合させたもの(2)、今一つは切り開かれた前身の下の点に縫合させたもの(3)を作る。でき上がったスラックスの前後の折目線の方角について垂直及び水平の方角から調べる。

結果 水平方向については(1)は設計図からわかるが外向している。(2)の場合はひざ上の部分からねじれ内向に変っている。(3)の場合は標準より外向している。垂直方向については(1)は前後の折目線共に下にいくほど内側にきているが、水平方向は外向している。(2)は股下の $\frac{1}{2}$ ~ $\frac{2}{3}$ 位から下は前の折目線は内側にむくが、後ろの折目線はほぼ垂直である。(3)は前後の折目線共に下にいく程多少内側にむくが、水平方向は前述のように標準より外向する。